2018年　1月28日 掲載原稿

シリーズ いばらき発見 ⑦⓪

鉄砲はづやん

常陸太田市大中町

昭和の初め頃、鉄砲は一発ごとに弾を込める「村田銃」が主流でした。ところが小里村大中（現在の常陸太田市大中町）に住む「はづやん」は、一発で二羽も三羽も鳥を撃ち落とすことがありました。周りの人は彼を「鉄砲はづやん」と呼んでいました。はづやんは、猟の季節には毎日山に入りました。その頃は、鉄砲を持っている人が今よりも少なく、どの山にもキジ、イノシシ、ウサギなどの動物がたくさんいました。はづやんは必ずたくさんの獲物を捕って山から帰ってきたそうです。

ある時、三人の猟師がはづやんの評判を聞きつけ、案内を頼んで山に入りました。犬が鳥を追い立て、三人の猟師が一斉に「ドン、ドン、ドン」と鉄砲を打ちました。しかし弾は当たらず、鳥は逃げてしまいました。その瞬間、はづやんが鉄砲をさっと構え「ドン」と一発打ちました。すると遠くを飛んでいた鳥がヒューっと落ちてきたのです。はづやんの鉄砲の腕前を目の当たりにした猟師たちは、すっかり感心してしまいました。

はづやんに秘訣を聞くと「目が良くないとだめだ」と答えました。遠くにいる獲物を瞬時に見つける視力と獲物が移動する速さ・向きなどを捉える感覚がとても優れていたのでしょう。

はづやんは、ウサギ猟も得意でした。ウサギを捕るには、ウサギの糞を手掛かりに通り道を探します。はづやんは、通り道の近くに隠れていたウサギを素手で捕まえてくることもありました。はづやんは、動物の習性や山の地形にもとても詳しかったのです。

猟の秘訣として「一に犬、二に足、三に鉄砲」と言われていますが、はづやんは毎日犬の訓練をしたり、山を歩く自分の足を鍛えていました。また、必ず急所を一発で狙い、鳥であれば目、イノシシなどの獣は、アバラ三枚目の心臓を撃ちました。その大切な命を頂く動物に余計な苦しみを与えないようにするためです。また、上手な猟師が一発で仕留めた獣は、ストレスが少ないのでおいしいと言われています。きっとはづやんの獲物で作るジビエ料理はとてもおいしかったことでしょう。

大中町のある常陸太田市旧里美村地域は、温泉が多く、里山の風景が美しいところです。あたたかい温泉に訪れてみてはいかがでしょうか。

〈参考文献〉「里美むかしむかし」（里美村教育委員会 編・発行）

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく
ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社
本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) http://www.ibaraki-isuzu.co.jp